

[成果情報名] ラベンダーの保温管理による開花促進効果

[要約] ラベンダー「城南1号」は、自然低温遭遇後の2月上旬からハウスで保温管理をすることで母の日向けの出荷が可能となる。

[キーワード] ラベンダー、保温、長日処理、開花

[担当] 長崎県農林技術開発センター 農産園芸研究部門 花き・生物工学研究室

[代表連絡先] 電話（代表）0957-26-3330、（直通）0957-26-4319

[区分] 花き

[分類] 指導

[背景・ねらい]

県内で育成されたラベンダー品種「城南1号」の鉢物生産において、これまでの試験により、2月中旬から15℃加温+長日処理（暗期中断4時間）を行うことで4月下旬から出荷できるという成果が得られている（ながさき普及技術情報、第28号）。しかし、近年の燃油高騰に伴いより低コストでの管理が求められている。このため、保温による温度管理と長日処理、処理開始日がその後の開花に及ぼす影響について明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 「城南1号」は、1月1日から2月10日に保温管理（図1）を開始することで、長日処理無しでも開花日は5月12～13日となり、自然開花（対照）より16～17日早まる。また、発蕾・開花枝数は20本以上となる（表1）。
2. 保温管理に長日処理を組み合わせることで、開花日はそれぞれ1日早まり、1月20日、2月10日開始では、発蕾・開花枝数が1本程度多くなる（表1）。
3. 保温管理において、長日処理の有無による開花日の差はわずかである。
4. 保温開始の時期は、1月1日から2月10日までの間では、開花日の差は小さい。
5. 出荷適期は、通常、蕾が紫色に色付いた頃（小花開花始め日の約10日前）であることから、5月2～3日となり、母の日（5月の第二日曜：8日～14日）向けの出荷が可能となる。

[成果の活用面・留意点]

1. 保温管理の方法は、無加温とし、ハウス内が25℃を超えたらハウスを開け、25℃を下回ってきたら閉める。
2. 試験実施年の月平均気温は、1月が平均気温6.6℃（平年比-0.2℃）、2月10.3℃（+2.9℃）、3月12.0℃（+1.5℃）、4月15.6℃（+0.4℃）である（長崎海洋气象台）。
3. 生育は、気温により影響を受けるため、気温が低く推移し、生育が遅れた場合、母の日間に合わせるには加温を検討する必要がある。

[具体的データ]

表1 「城南1号」への処理開始日及び長日処理が開花に及ぼす影響

処理開始日 (電照の有無)	小花 開花日1)	出荷 適期2)	鉢あたり 伸長枝数3)	鉢あたり発蕾・ 開花枝数4)
11/1 (無し)	5/17	5/7	24.5	24.3
12/1 (無し)	5/15	5/5	24.5	24.2
1/1 (無し)	5/12	5/2	22.3	21.8
1/20 (無し)	5/13	5/3	20.7	20.5
2/10 (無し)	5/12	5/2	25.8	24.8
11/1 (有り)	5/13	5/3	25.0	24.3
12/1 (有り)	5/11	5/1	24.8	24.5
1/1 (有り)	5/11	5/1	21.7	21.2
1/20 (有り)	5/12	5/2	22.0	21.8
2/10 (有り)	5/11	5/1	27.2	26.2
対照 (無し)	5/29	5/19	24.7	24.5

数値は1区あたり6株を調査

1)小花が1輪開花した日

2)開花日の10日前を出荷適期とした

3)7cm以上に伸長した枝

4)小花が1輪以上開花した枝及び蕾が肉眼で確認できた枝の数

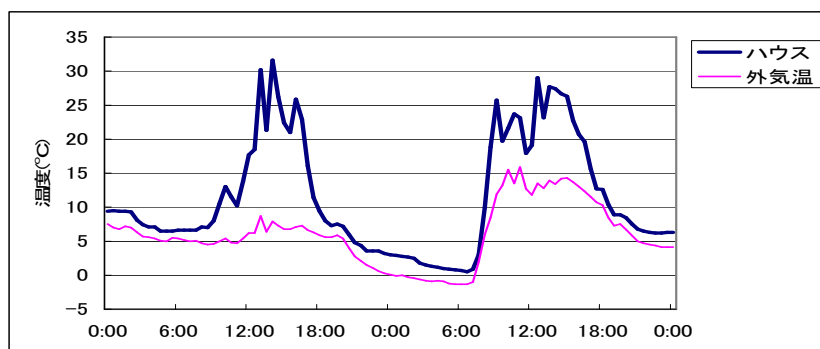


図1 保温管理のハウス及び屋外の気温の推移

注) データは、3月14日0:00から3月16日0:00までの2日間

(1) 耕種概要

2008年4月に挿し芽、5月に3号黒ポットに鉢上げ、11月に4号黒ポットに鉢替えし、処理開始日まで露地で管理。11月1日から各処理開始日に保温したハウスに搬入し、処理を開始。

(2) 長日処理方法

白熱球(100V, 75W)を棚上約1mの高さに設置し、22:00~2:00の暗期中断。

[その他]

研究課題名：新規導入花きの技術開発

予算区分：県単

研究期間：2006~2008年度

研究担当者：竹邊丞市、諸岡淳司